静岡新聞

3年	作文を書こう
国語	

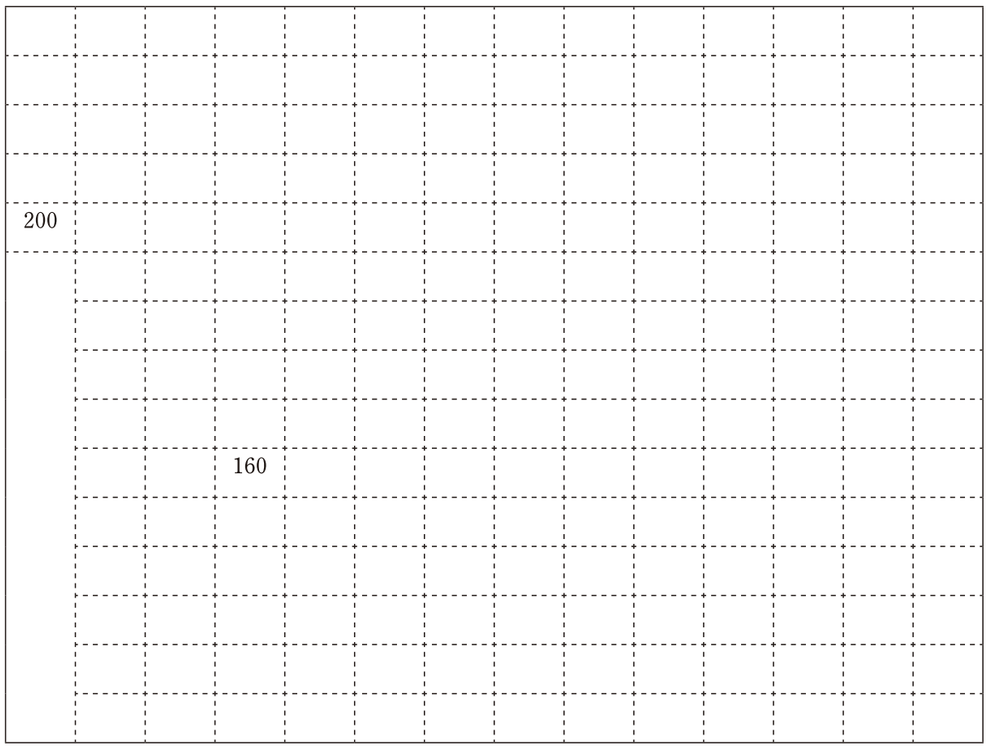
年　　組　　番　名前

☆3年生ともなると、学力調査や入試に向け、作文の練習も必要になってくる。漢字ノートを使った家庭学習では、「先生、作文やりたいのでテーマを出してください」と言ってくる人もいるが、新聞を使って自分でテーマを設定できると、「自分の物の見方を養う」ことの練習にもなる。

【手　　順】①興味のある新聞記事を選ぶ。　②肯定・否定の立場を決める。
③一段落目で立場と簡単な理由を書く。
④二段落目に、根拠となる事柄を身の回りから探して書く。

【ちょっとしたコツ】①肯定・否定はあくまで作文を書く上での便宜上のこと。
②メリット、デメリット両方に向け、書きやすい材料があるかどうか考えるとよい。

【やってみよう】右の記事に、賛成か反対かどちらかを選んだうえで、次の条件にしたがって、作文を書こう。
・160字以上200字以内で書くこと。
・全体は二段落構成とする。一段落目には、賛成か反対か、簡単な理由を添えて書こう。
二段落目には、根拠となる具体例を一段落目と関連づけて挙げながら書こう。



2年で高校卒業可能

大学飛び入学新制度

文科省創設へ

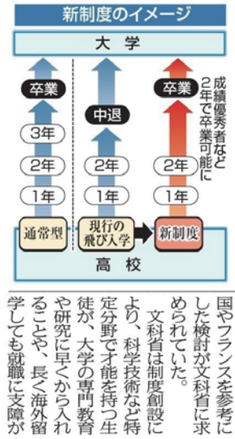
文部科学省は1日、高校を2年間で卒業して大学入学資格を得られる「早期卒業制度」を創設する方針を決めた。特に優秀な生徒の得意分野を伸ばして早く大学で学べるようにし、国際社会で通用する人材を育成するのが狙い。早ければ来年度の学校教育法の改正を目指す。

現在も高2修了で大学に入れる「飛び入学」制度があるが、高校中退扱いになる上、手続きが複雑で、1998年以降、6大学で約100人の利用にとどまっている。

4月の政府の国家戦略会議では、日本の成長には教育改革が急務との指摘が相次ぎ、小中高校の「6・3・3」制の見直しや、大学入学に年齢制限がない米国やフランスを参考にした検討が文科省に求められていた。

文科省は制度創設により、科学技術など特定分野で才能を持つ生徒が、大学の専門教育や研究に早くから入れることや、長く海外留学しても就職に支障が出ないなどのメリットを想定している。

だが、教育関係者には「エリート優遇」と低年齢化を招く」といった懸念も強い。文科省は学業成績やスポーツ、芸術で特に秀でた場合に限ることで対象の批判や「受験競争の一方、高校卒業に必要な単位取得について、2年で同等の学習時間をどう確保するか」といった課題もある。文科省内では6年制の中高一貫校を、5年で卒業する生徒が中心となるとの見方が有力だ。



今回の記事について
～たとえば、こんなことについて目を向けてみよう～

・高校へ3年間行かないことで、親友と行事を体験したり、部活をしたりという機会は減る。これはメリット？　デメリット？
・得意分野を伸ばして大学へ、ということは不得意分野について学ぶ機会は減るということ。これはメリット？　デメリット？
・早く大学で学ぶと本当に国際社会で通用する人材は育つ？　そもそも国際社会で通用するために必要なことはなんだろう？

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

＊指導する先生や保護者の皆様へ（静岡市立籠上中学校・大村友乃）
この次のステップとして、「自分で記事を選び、テーマを決めて作文を書こう」といった活動が考えられます。